



# 素人診断學の必要

糸 左 近

近來何れの雜誌何れの新聞にも、「如何にして結核を豫防す可きか」とか、「余の長命法」とかと、いふやうな題目を載せて、さらでだに長生したがる人々を、嬉しがらせる事が流行する、其他生理衛生或は疾病治療に關する書物も、續々刊行せらるゝ之を或る論者は、人を憶病にせしむる弊害が伴ふと、杞憂するけれど、兎に角衛生思想の發達せる徴候で、強健なる國民を養成する上に於て、大に賀す可き事であらう。さは去りながらそれに就いて余の不審に堪へぬ事がある、それは何かと云ふに、斯る衛生思想の普及しつゝあるにも拘らず、何人も最も心得て居らねばならぬ診断學上の智識

を、何せ養成せぬか、何せ學びたいと思はぬか、この二つである、と云ふと、それは醫士の領分で、醫士ならぬ我等が此の頻繁なる世の中に立つて、其様な事まで穿鑿する暇が無いと、言はるゝかも知れぬ、けれども、余に言はしむれば頻繁なる世の中だから心得ねばならぬ必要があるのだ、尤も余とても醫士ならぬ素人方に醫士の心得可き診断學を悉皆研究せよと注文するでは無い、即ち何うあつても知らねばならぬ範圍内だけ、換言すれば余の所謂素人診断學を心得て戴きたいと申すのである、請ふ其の必要なる理由を述べさせて下さい。

素人診断學の智識は三大幸福を生む所の母である、第一は瞬間を争ふ人命を何程繋ぐかも知れぬ、殊に泣くより外に何一つ言ふこと知らぬ可憐の繼子を育てる父母は之を萎ますと萎まさぬ上に於て、此の知識は莫大の功がある、咳嗽聲一つ聞いても、ハテナ乾いてゐて、短かく小さく、痛みあるが如く、コホン／＼ヒューこれア實扶的里亞の疑があ

る、乃で電話の有る家なら早速チリ〜チリン「モシ〜先生恐れながら血清御持參大至急御來診を願ひたい」とかける、醫士も其の心得で來るから直様注射して目出度〜だが、診斷學の智識が無いと、實扶的里亞は晝間左程苦しめ病であるから先生御手際になつたら一寸御見舞下さいと位を云ふ、醫士も方々の往診を濟してから、悠悠々出懸ると、豈圖らんや末期に近づいてる、さア大變使を遣つて血清を取寄せ下さい、血清の來た時は最早嘆き悲めども更に其の甲斐有る可からず右は唯實扶的里亞の一例だが、尙進んで言へば、身體に熱が有つて、瞳孔が小さくなり、而も斜視の風を呈はすは腦膜炎だと、診斷することが出來れば、冷頭温脚の處置をしてゐて、一方醫士を招くから助かるけれど、診斷が就かねば勿論其の處置もせぬ、従つて死ぬ。又初生兒の出産後間もなく眼中に少し赤みを帶ぶるは膿漏眼で無からうか、斯う疑ふと疑はぬは盲目にすると思ふとの境、

其他、泣聲・口中・糞便・腹部の抵抗力等、之を知つて親と知らぬ親とは、文明野蠻の岐るゝ所である、今一步進んで、大人の例を擧れば、俄然眼球の陥没して、眼瞼の周圍に赤色或は青色を呈はし、皮膚に粘い汗を發してゐる者を見たら、虎列刺顔と望診して、危きに近寄りぬとか、或は又夏日旅行して路に倒れてゐる人を見、皮膚に手を觸れ、「皮膚は非常に乾燥してゐて而も大熱がある、これは日射病だ、或は「皮膚は少し熱して居れども、大いに濕うてゐて、而も顔面は蒼白い、これは腦貧血である」斯う鑑定するとせぬとに依て、其の處置が違ふ、若し前者ならば一手桶の水を全身に掛けば直様蘇生するけれど、若し後者ならば一口の水を顔面のみを吹いて、オーイと大聲に呼ばねばならぬ、然るに炎天に倒れてゐる者だから、日射病に相違無からう位で、後者に一手桶の水をガブ〜注いだとすれば、實に有難迷惑イヤ迷惑どころか、助かる可き命を殺すのだ、實に診斷學の智識は誰

にでも有りたものである。第二は、診断學の智識を、人世の一大事たる結婚に應用する事が出来る、何某は大學を優等に卒業して、銀時計も頂いた男、品行も方正、實に有爲の士であると、詳しく探偵しても、寸分それに違はぬ、何子嬢は風姿も美しく、性質も温和、加之に學問技藝も有ると、能々聞糾しても更に媒妁口に虚言は無い、是に於て愈々見合をする、所が眠球突出せるかの如く見え、鼻翼動く、これは呼吸困難の徴、好男子惜むらくは、バセドー氏病に罹つてゐる、色白く頸長く、頬に少し赤みがある、眼球に一種の黒みを帯び、身體はナヨ／＼と柳の如し、これは結核の素因があるらしい、嗚呼憐む可し美人薄命だわいか、斯様に望診するとせぬとは、一世の苦業を共にせんとする者には、實に大切であつて、輕々しく三々九度の盃をなし、後に悔いても泣いても仕方が無い——それは出入の醫士に尋ねる所が醫士は、縦ひ本人の親兄弟にでも、病の秘密を洩せば、重禁

錮に處せらるゝ法律があるから、決して人の病を彼は答へぬ、されば何うしても素人自身に望診する所の智識が無くてはならぬ、嗚呼診断學の智識は實に「お前百までわしや九十九まで」と誓はしむる否實行せしむる眞の媒妁人である。第三は此の智識をいとも尊き教育上に應用することが出来る、詳しく言へば、小中大の學校長若くは教員たる者は是非此の智識無かる可からずだ。此兒は皮膚蒼白く、筋肉瘦せて潤ひ無く、顔面は浮腫あるかの如く見え、皮膚は僅かの刺戟で紅くなり易い、靜脈は透いて見ゆる、父兄を呼んで曰く、「御長男は腺病質らしい、早く醫士の診療を受け、二年は休校して、身體を挽回したる上、再び入學せしめられよ。」君の角膜は何と無く變だ。一寸眼瞼結膜を見せ玉へ」と之を綱せば大いに充血して、粟粒の如き物が一面に在る、「これア大變だ、トラホームだらう、歸宅後早々眼科醫の許へ行き玉へ。」彼の視勢はキヨロ／＼と浮動し、屢々遠

方を見るが如き状態を呈してゐる、或は精神に異常を來してゐるだらう、今一年で文學士となるのだけれども、さうならぬ中に静養させて、而も他業に轉しさせた方が彼前途の爲に幸福である。斯の如く、校長或は教員に診断學の智識が有つたら、生徒の爲に何れ程大利益を蒙るか知れぬ、——學、校醫がある、それは有るけれど、一月或は一年に、一度や二度來て、幾百千人の生徒を、一々診断出

シチュー種の実験

(第五頁より續く)

此シチュー種も大體前のカレー種と同様に鍋にとかしてどろ／＼にしたらば肉の細片が澤山出て來ましたがにんじんは疾くにとろけてしまつた爲めか汁が赤くなつて居るばかりです。其汁を味つて見るとさつぱりして中々よいですが肉には鹽が染み過ぎて居る様です。其汁を味つて見るとさつぱりして中々よいですが肉には鹽が染み過ぎて居る様です。併し是もカレー種と同じく立派な主婦ある家では火急の場合の外は別段重寶でもありません。兎に角其價値は懷中しるゝが本物のしるゝに對すると同じ様なものと思つたら間違はないでせう(發賣店は神田猿樂町二五岡島商店)

來るものではない、故に學校醫は校長或は教員の素人診断をしたる後の顧問者であると心得られた。右の次第であるから、余は文部大臣に懇請する、中學校高等女學校教師範學校高等師範學校及び文科大學等には、必ず素人診断學の科目を加へられ、漸次國民一般に、此の智識の普及するやう、あらまほしく。